

令和8年度 第1回千代田区男女共同参画センター運営協議会 議事要旨

＜日 時＞ 令和8年7月16日（木）18:30～20:00
＜場 所＞ 千代田区役所 10 階 男女共同参画センターMIW 交流サロン
＜出席者＞ 委員：牛山会長、佐野副会長、木曾委員、鈴木委員、我孫子委員
事務局：国際平和・男女平等人権課
男女共同参画センターMIW

＜配布資料＞

資料1 令和8年度千代田区男女共同参画センター運営協議会委員名簿
資料2 令和7年度 MIW 事業概要（冊子）
資料3－1 令和7年度 MIW 事業報告
資料3－2 令和7年度 MIW 事業報告（12 月以降）
資料4 令和8年度事業実施計画と課題

参考資料① 令和7年度事業報告
参考資料② 令和7年度講座利用者アンケート集計結果（一部抜粋）
参考資料③ 令和8年度利用状況の推移
参考資料④ 令和8年度利用状況（前年度比）
参考資料⑤ 令和8年度事業計画案
参考資料⑥ 令和8年度男女共同参画週間パネル展示

＜議題及び質疑応答、意見など＞

1 令和7年度事業報告（資料3－1、資料3－2のとおり）

【男女共同参画センターより報告】

- DV ハラスメント防止のための講座『ガスライティングという支配』では、定員 80 人に対し、93 人が参加したとのことだが、広報活動は他の講座と同じ形式で実施したのか。
→同じように実施した。参加者が多かった理由としては、テーマの新規性、ポスターへの注目度が高かったこと、一般向けに講座を実施していない講師であったため、支援者側の申込みが多かったことが考えられる。
- 「読書会 in 日本出版クラブ」は MIW の初回利用率が 66.7%であることに関連して、場所を外部開催としているのは、これまでと違った参加者層をターゲットにしているからなのか。開催場所を変えることで、これまで MIW を知らなかった人への MIW の周知にもつながるのではないかとと思う。
→ファシリテーターを日本出版クラブの編集担当者に務めてもらっており、日本出版クラブが開催した展示やその担当者のワークショップの参加者、担当者の固定ファンなどが参加したことの影響が大きい。

- 国際女性デーMIW2026 キャンペーンで区内の書店等で関連本を展示したことについて、展示した図書の出しが増えたり、購入数の増加につながったのかなど、展示後の状況を検証しているのか。
- 現状は展示している様子を撮影し MIW から SNS 等で発信するにとどまっている。実際に展示を見た人の感想までは聴取していない。今年度の開催に向けて、展示を見た人に感想やコメントをもらえるような工夫を検討していきたい。
- 「読書会 in 日本出版クラブ」はどのような内容で開催したのか。
- 関連図書 100 冊程度から参加者が気になったものを手に取ってもらい、会場内の好きな場所で読んでもらう。その後、その本を選んだ理由や感想を共有するといった内容。
- 相談事業について、延べ 401 件とのことだが、相談内容ごとの分類も示してもらえるとよいと考える。また、他機関へのアウトリーチ・連携について、区内大学学生相談室は 10～20 代の相談が微増したとのことだが、それ以外のアウトリーチ・連携先では具体的な連携事例はあるのか。
- 相談内容については、前回と大きく変わらないため割愛したが、DV、夫婦・パートナー関係、子育てに関するものが主訴・従訴の 6～7 割を占める。30～50 代の子育て世代の女性を対象者の中で圧倒的なウェイトを占めている。アウトリーチ・連携先については、必ずしもすぐに相談につながるものではないが、性暴力支援センター・SARC 東京に MIW に相談した学生をすぐに紹介し、急性期の対応につなげることができた。区内レディースクリニックについては、この施設に勤務する助産師に対して講座等で連携ができないか検討している。
- 女性のための法律相談について、原則継続利用不可とは具体的にどのような運用になっているのか。
- 弁護士に相談できるということで人気が高くなってしまうことが考えられるため、初回は相談を受け、その後は弁護士と直接受任契約を結ぶ方が望ましいと考えられるため継続利用不可としている。ただし、原則であるため、以前とは別の相談内容である場合等は利用できるようにしている。

2 令和 8 年度事業実施計画と課題（資料 4 のとおり）

【男女共同参画センターより報告】

- 39base は民間の施設なのか。
- 飯田橋に本社のある大和ハウス工業株式会社が社会貢献の一環として地域の活動拠点を設けている。無料で利用でき、区内の様々なイベントが実施されている。
- 万世橋区民館も無料で使えるのか。MIW での開催にこだわらず区内の施設を活用することはよいことだと思う。
- 区の施設のため無料で利用できる。
- 区内大学で開催予定の LGBTQ カフェについて、参加対象者の「LGBTQ 当事者、または当事者かもしれない人」という表現はどのような意図で用いているのか。このような企画を実施した場合、参加者が集まる見込みはあるのか。
- 「LGBTQ のためのほのぼのスポット」は 4 年ほど継続して実施しており、これまで「当事者または当事者かもしれない方」を対象として開催したことがある。
定員は 5 名程度とし、毎回ほぼ定員に達する状況であり、一定のニーズがあると認識している。ま

た、以前に「キャリア」をテーマとして実施した際には、募集開始後すぐに定員に達し、参加を断らざるを得ない状況となった。

キャリアや生き方に関する課題は、年代によってニーズが大きく異なると思う。そのため今回は若年層を対象とし、センターの協力を得ながら、大学内で安心して参加できる環境で実施することとしている。事業の実施にあたっては、若年層を中心に一定のニーズがあるものと考えている。

●LGBTQ 当事者が上記のようなイベントに参加するのは勇気がいることのように思うがどうか。

→当事者の方には、就職活動や職場でのカミングアウト、望む性別で働くことの難しさなど、当事者ならではの悩みや課題があるため、このようなイベントにはニーズがあると思う。

今回の企画についても、実際の参加状況は実施してみなければ分からない部分はあるが、当事者の方々のニーズに応えられる取組となるよう進めていきたい。また、参加に伴う不安や負担を軽減するため、会場の詳細は参加者のみに案内するほか、当日の様子が外部から分からないようにするなど、プライバシーに十分配慮した運営を検討している。さらに、大学のダイバーシティ・エクイティ・インクルージョンセンター（以下、「DEI センター」という。）と連携し、当事者支援に関する知見やノウハウも共有しながら、安心して参加できる場づくりに努めていきたい。

●LGBTQ カフェの実施について、大学内で開催するとその大学の学生同士が参加した場合、互いがLGBTQ 当事者であることがわかってしまうのではないかと。

→LGBTQ カフェで出会った参加者同士で、互いがLGBTQ 当事者であることは分かってしまうことにはなる。ただし、実施にあたってはグラドルルールを設け、この場で話したこと、知ったことはその場限りとして、アウティングにつながるようなことはしないように参加者に求めている。もし大学内で自らがLGBTQ 当事者であることを知られたくないが相談したい学生がいた場合には DEI センターと連携し、MIW 相談室を利用してもらうなど、適切なサポートを行っていきたい。

●MIW 祭りの開催日数が2日から1日に変更になったのはどのような理由か。

→1日に集約することで、より中身の濃いプログラムに充実させるため。また、これまで土曜日よりも金曜日の方が参加者が多いという状況があり、その状況も踏まえ、試行的に2日から1日に変更して開催することに決めた。

●区内大学図書館との連携について、パープルリボンプロジェクト関連展示を実施しているが、展示のみならず、関連図書の読書会の開催なども検討してはどうか。

→検討していきたい。

●パープルリボンプロジェクト関連展示に関連して、区内大学図書館との連携を検討しているが、大学図書館だけでなく、大学のダイバーシティ推進センターのような部門などとの連携を検討してはどうか。

→ダイバーシティ推進センターなどと連携し共催でイベント等を開催できると、今後の展開も広がっていくと思う。区内には大学がたくさんあるので、連携を図っていくことで効果的な事業が実施できると考える。図書館だけでなく多様な連携先を検討していきたい。

●MIW では様々な講座や事業を展開しているが、これまで運営協議会では予算や予算配分の考え方について十分に議論されていないように感じる。近年の事業拡充に伴い、運営予算はどのように推移しているのか。また、今後どのような事業に重点的に予算を配分していくのかについても、運営協議会で共有・議論する必要があるのではないかと。

→事業の実施に当たっては、限られた予算を有効に活用していく視点が重要であると考えている。そのため、各講座や事業については、区民ニーズや事業効果を分析しながら、優先順位を意識して取り組んでいきたい。今後、運営協議会においても、予算の活用状況について示していけるよう検討していきたい。

各講座には一定の予算枠があるが、その中でできるだけ工夫を重ね、多様な事業を実施できるよう取り組んでいる。図書館や大学、企業との連携は、新たな経費を大きく伴うものではなく、限られた予算の中で事業効果を高めるための取組の一つである。今後も、様々な機関との連携を進めながら、効率的かつ効果的な事業運営に努めていきたい。

●上記の質問に関連して、MIW の事業予算は年々増えているのか、それとも減っているのか。

→人件費等が上がっているので、年々かなり増えている。

●LGBTQ カフェなどニーズのあるイベントや講座は参加枠を増やすことはできないのか。

→LGBTQ カフェに限っては、イベントの特性上、クローズな会場で安心・安全に実施する必要があったことから、参加者を限定して実施したため人数を増やすことができなかった。しかし、そのような制約のない講座であれば会場次第では定員を増やすことはできる。また、オンライン講座に関しては、定員 80 人としているが基本的には申し込みがあった人はすべて受け入れている。

●福祉まつりへの参加について、開催場所が区役所本庁舎とかがやきプラザで分かれているが、かがやきプラザに訪れた人を MIW に呼び込むための方策は検討しているのか。

→当日、区役所 10 階の食堂を利用した人をターゲットに同じフロアの MIW に呼び込むことを検討している。また、クイズラリーやスタンプラリーに参加できれば、MIW に足を運んでもらえる人を増やすことができるため、参加意向は提出している。その他、モールでみゅうじろうをつくるワークショップを実施するので、チラシやパンフレットに掲載し、広報活動を積極的に実施していきたい。

●MIW の一般の人への周知について、神保町の古本祭りでのブース出展やブックカフェで読書会を開催すれば認知度の向上につながるのではないかと。

→ブックカフェでの読書会は一度検討したことがあるが、費用面で見送った経緯がある。古本祭りについては、MIW のイベントと開催時期が重なってしまうため難しいが、外部のイベントやリソースについてリサーチしながら検討していきたい。

●出前講座が 1 枠募集中であることについて、教育委員会への周知は行っているのか。

→課より校園長会で出前講座の活用について周知している。区立学校は優先的に募集しており、応募がなければ私立学校に打診するようにしている。ただ、校園長会ではさまざまな案件が提示され、埋もれてしまう可能性もある。MIW から指導課への講師紹介も行っているため、そのような機会を通じて出前講座の利用について提案していきたい。

●今年度の MIW の活動について、区内のさまざまな場所で活動を実施していくことは、幅広い年代への認知度向上につながると考える。今年度の終わりに認知度向上の結果を数値として見ることであれば MIW の活動の効果を実感できると思う。また、区内企業への支援について、今後この活動が充実していくとよいのではないかと。区側から民間企業にアプローチすることは難しいなかで、千代田区は企業数が多く、地域とつながりを持ちたい企業もいるのではないかと。そのため、MIW のイベントに参加してもらうことで、地域の企業と接点づくりができればいいと思う。

→区内企業との連携の実績は少なく、こちらから特定の一社に働きかけることは難しい。一方で、企業側から来た相談や依頼事項には丁寧に対応していくことで、連携を深めることができると考える。また、中小企業等では何から取り組んだらよいかわからないという声も少なくないため、そのような企業に対して、MIW 相談の活用の提案など今後の課題として検討していきたい。

●企業との連携に関しては、社会福祉協議会がボランティアを名乗り出ている企業と連携している。社会福祉協議会の取組事例を参考にしてみてもよいのではないかな。

→今後参考にさせてもらう。

3 その他

（事務局より）

- ・令和8年度男女共同参画週間パネルについて情報提供